

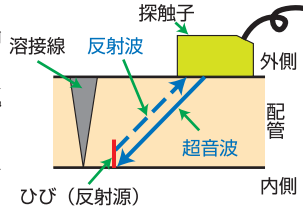
次に新潟県から補足説明があり、最後に各委員が感想を述べて終了しました。

県 定期検査と自主点検では点検方法は同じだが、評価方法が異なり、定期検査では一定の基準以下の超音波エコーを異常なしと評価するルールになっている。4号機の未点検箇所は過去5年間に定期検査で点検した箇所であり、本当にひびが無かったのか点検方法、点検記録、評価方法を技術委員と共に確認したが、ひびと疑わしいものは一切無かった。その際、東電の検査に

再循環系配管の点検方法について

問題となっている再循環系配管のひび割れは配管の内側に発生し、直接ひびを確認できないため、配管の外側から超音波探傷試験で検査します。

ひびがあると超音波がはね返ってくるのでひびがあることがわかります。また、表面の凹凸でも超音波がはね返ってきますが建設時の記録との比較によりあとからできたひびではないことがわかります。



関わっていない三菱重工の検査員を技術委員に委嘱し、助言を得ながらチェックした。

▼質疑応答・意見

Q 1箇所の検査の所要時間は、**A** (東電) 最低3時間。

Q 点検時期でひびの長さが増減している理由は、**A** (東電) 測定器の配管への押しつけ方によりひびの長さの測定値は数%の誤差が生じるが、ひびの見落としはない。

Q 配管検査は自動と手動があり、自動の場合はデータを自動処理することだが、手動の場合はどうするのか。**A** (東電) 手動の場合は、資格のある測定者が測定し、一定レベル以上のデータを読み上げ、記録者が記録。その記録を基に資格のある技術者がひびの有無の解析を行う。

Q 今回の点検でひびの発生割合が急に増えている原因は、**A** (東電) 今年度の点検でひびの発生割合が急に増えている原因は、

A (東電) 年数が経つとひびがでやすくなるということもあるが、現在、原因を調査中。

Q 他の電力は全数点検しているのに東電は全数点検しないのか。**A** (東電) 応力腐食割れによるひびは、ゆっくりと進展することがわかっていて、5年で計画的に全数点検するというのが合理的であり、国の判断である。

Q 改良した検査方法で行っているのか。**A** (東電) ひびの深さの精度向上のために改良した方法で検査している。従来の方法でもひびの有無は充分検出可能。

感想
 ・これだけのデータを出したことは評価。一生懸命やっていることがわかり、安心。今後、技術を高めて点検を。
 ・東電の一生懸命説明する姿と県の説明で二重に安心した。
 ・県の第三者による確認は説得力があり、このような分かり易い説明は安心につながる。

我々もデータを検証する場面もあるかと思うが東電の自信あるデータ公開に期待。
 ・難しい内容であり、データの評価は専門家に任せ、その結果を分かり易く説明を受ければ充分では。
 ・膨大な点検をしなければ稼働できないのは容易でない。これだけ嚴重だということは原発が危険ということでは。
 ・人為ミスが多すぎる、もっと慎重に。
 ・技術的にもしっかりしても信頼できない。キチンと点検してひびがあれば取り替えるのが信頼回復・安心につながる。
 ・他の電力は全数点検しているのに不正をはたらいた東電が調べないのはおかしい、安全をおさなりにしているのでは。
 ・今回の点検で急に傷が増えたということについて、まだ納得いかない。
 ・安全、安心には信頼が必要。5年ルールはわかるが今の時期にはどういふものか。全号機停止は最終的には東電が判断し、涙を飲んで停止したと思うので安易に再開せず慎重に。